

町内会の新たな取り組み

～ 本郷町内会文化祭 ～

本郷町内会 総務部長 土橋 紘子

平成28年10月15日(土)と16日(日)は、当町内会の初めての「町内会文化祭」でした。第1部は展示発表、第2部はステージ発表、第3部は懇親会という内容で、どの場面も予想を超えるにぎわいとなりました。

第1部、第2部においては、身近に素晴らしい方々がたくさんいらっしゃることを再認識させていただきました。また、懇親会ではプロの演奏家による演奏を目の前にして大興奮のひとときでした。

最後に、今回、何よりも画期的であったと言えるのは、住民(一般の町内会員)が中心となって実行委員会を立ち上げたことでした。このように、住民主体の「新たな取り組み」を、今後の町内活動に生かして行きたいと思います。



展示発表



ステージ発表



懇親会

情報ひろば

福祉のまち推進センター

運営委員長 中村 昌彦

東白石地区社会福祉協議会に属する実働部隊です。福祉とは社会の多くの人の幸福とある。活動の幅は広く当地区として出来る活動とは何かと考えました。75歳以上の独居の方を対象とした事業を展開して来ました。特筆すべきことは、毎年実施している対象者との会食、懇談会に東白石小2年生、本郷小4年生の児童が授業の一環として参加、ひと時ですが異世代交流の場として定着しており、校長先生、教職員のご協力を賜って継続しています。誌上をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。

① ふれあい入浴ツアー

平成28年8月2日(火) つきさむ温泉・・・72名



② お一人暮らしの皆様との(満75歳以上)会食、懇談会

平成28年9月13日(火) 東白石会館・・・29名
平成28年9月15日(木) 南栄会館・・・30名
東白石小、本郷小129名の参加



③ 東白石地区防火・防災訓練見学会

平成28年9月24日(土) 万生公園・・・30名

④ 友愛訪問

平成28年10月29日(土)
行事に参加できなかった方々のお宅を訪問(463軒)。ふくまち活動報告、広報誌持参。安否確認を行いました。

⑤ 忘年会

平成28年12月4日(日) アサヒビール園・・・40名

⑥ 東白石地区福祉のまち推進センターの拠点ができました

〒003-0022
白石区南郷通13丁目南2-25 TEL864-4000
・見守り、安否確認 ・声かけ、話し相手
・高齢者等の意識調査 ・ふれあい会食会 ・研修会
※常駐はしておりませんので、電話で、事前にお問い合わせください。

編集後記

本実践会は、東白石地区内の17町内会及び各種団体に構成しており、今回は28年度の主要事業をご紹介しました。

東白石通信

東白石まちづくり実践会
とんぱくニュース
札幌市白石区本通13丁目南10-1
東白石まちづくりセンター内
TEL861-9262 FAX861-4369

◇ 平成29年度に向けて



東白石地区町内会連合会 東白石まちづくり実践会 会長 山中 忠典

会員の皆様、新しい年を迎え今年もヤルゾと言う希望で、胸を膨らませた事と思います。昨年は東白石町連の皆様方にご協力を賜り、町連の事業も滞りなく推移してまいりました。また、目標にあげておりました地域の交流も、各種団体の協力を頂戴して明るい街づくりが出来たと思っております。

ー感謝ですー

平成29年度も昨年同様に進めていきたいと考えております。

昨年初めての試みでありました大学生とのコラボで、子供たちと中高年そして高齢者が一つの輪になって、「東白石ふれあいまつり」を開催し、老若男女が大いに盛り上がりました。今年も子供たちの笑顔そして大人たちの笑顔を見たく、昨年に引き続き工夫を重ねてより良い企画を立てたいと考えております。

そして、各種団体の事業「森に学ぶ、昔遊びと餅つき、テニポン、ミニバレー等」で交流を図りながら、子供たちの思い出づくり、健康な心を育む事業を展開し、乳幼児の子育てサロン、また単町でもシニアサロンを実施し高齢者の居場所づくりのために努力してくれています。

その外にも、地域の安心・安全のため地域の中を夜間にパトロールをしています。

町連は、地域の人たちが楽しく、安心で安全なまちに、そして災害時には、お互いに助け合えるまちづくりにまい進してまいりたいと思っております。

これからは、何をしてくれるかではなく、何をしてくれるかを考え、高齢化に伴って認知症にならないためには、「よく出歩き、よく話し、よく笑う」をモットーに日常を送りたいものです。

結びになりますが、皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げ、あいさついたします。

◇ 開校50周年を迎えて

東白石中学校 校長 山崎 昇



開校50周年記念講演会
講師 柔道女子金メダリスト上野雅恵さん

『東白(トンパク)』の愛称で親しまれてきました本校も、今年度、半世紀に及ぶ時を刻むこととなりました。その誕生は、昭和41年12月、本市の急激な人口の増加と発展に伴い、白石中学校より分離し、開校いたしました。以来、学校教育目標「すすんで、よりよい社会をつくる人になる」の達成と保護者、地域の皆様から信頼される学校の創造を目指し、日々の教育活動に取り組んでおります。特に、地域の皆様には、中学校区が一体となって実施している「あいさつ運動」や個々の生徒が適切な職業観を身に付けていくための職場体験学習では、学習の場を提供していただくなど大変お世話になっております。今後も生徒の健全育成に向けて一層の御指導、御支援をお願い申し上げます。

東白石安心安全パトロール隊の活動

東白石安心安全パトロール隊 常任委員長 辻 直 則

パトロール隊は、平成11年頃から地域安全活動推進委員により夜間パトロールとして発足しました。その後、平成14年4月には単町の防犯部長も加わり活動が拡大し、平成17年11月に消防庁より地域安全ステーション整備モデル事業の指定を受け、平成18年5月には白石警察署より防犯パトロール隊の認定を受けております。現在は16町内会、158名、青色パトロール車7台で構成されております。徒歩パトロールはA、B、Cに分かれて第1、第3水曜日に、青色パトロールは第2、第4金曜日に活動をしております。晩酌を諦めて参加している隊員も沢山居ることと思いますが、月2回の休肝日という事でご理解いただいております。隊員には80歳代の方、女性の方も居り、一生懸命徒歩パトロールをされています。皆さんのお陰で活動が成り立っており、安心安全合同研修会でも白石警察署よりお褒めの言葉をいただいております。これからも地域の安心安全はもとより、隊員の安全を第一に活動をして行きたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。



にこにこサロン・子育てサロンの活動

にこにこサロン 常任委員長 田 中 恵津子

「にこにこサロン」は今年で11年を迎えます。これも地域の皆様のご支援のお陰と心より感謝申し上げます。当サロンは各地区に子育てサロンをとの市の要請で、当時東白石児童会館の子育てサロンを手伝っていた民生委員協議会とボランティアの方々に声を掛け、東白石町連女性部、日赤東白石分団の協力を得て立ち上げることが出来ました。当初は東白石会館の2階を会場に、平成22年度からは本郷小学校ミニ児童会館をお借りして年12回、東白石児童会館の子育てサロンは週3回開いています。0歳～5歳までの乳幼児の親子が参加し、スタッフは子育ての楽しさを実感して貰う為の時間を共有し、コミュニケーションを大切に日々活動しています。今後ともご理解ご協力をお願いいたします。



こらぼDEトンパークの活動

こらぼDEトンパーク 常任委員長 中 村 昌 彦

行政主導により東白石まちづくり実践会が発足した事により、従来から活動していた青少年育成委員会と連携した事業を実践する様、提案されました。

児童会館、地区内の小中学校行事等を協力するのが目的です。愛称を考えました。東白石地区をコラボレーション(共同作業)で実践する。

改めて説明する必要の無い愛称と自負します。

〈活動状況報告〉参加者は毎回多数です。

昔あそび&もちつきにチャレンジ

毎年1月後半の日曜日 東白石児童会館、東白石会館

月寒川にぎわい川まつり(月寒川)

毎年7月後半の日曜日 白石土木センター

森に学ぶ

毎年8月後半の土日

道民の森 月形キャンプ場

児童会館でのお泊まり会、クリスマス会その他の行事に協力。



東白石地区自主防災訓練の取り組み

東白石地区町内会連合会 防火防災部長 柳 本 稔 榮

毎年9月下旬に、白石区地域防災計画に基づき実施しております「東白石地区自主防災訓練」についてご紹介いたします。

東白石地区の12町内会を母体とする10自主防災会が主体となり、白石消防署の指導及び白石消防団、札幌市赤十字奉仕団東白石分団、福祉のまち推進センターの協力のもと、災害発生時に、地域住民が、迅速かつ的確に応急対応が出来るよう防火防災訓練を実施すると共に、地域住民の防災意識の高揚を狙いとしています。

訓練の内容は、大きく「個別訓練」と「総合訓練」とに分けて実施しています。

「個別訓練」には、①住民による「優先搬送者判断訓練」、②応急担架作成・搬送訓練、③応急処置訓練があります。

また、「総合訓練」は、①避難行動要支援者の避難支援、②生き埋め者救出訓練及び住民による「優先搬送者判断訓練」、③担架作成・重症者搬送、軽傷者付添搬送、応急処置訓練及び負傷者情報の救急隊への引継ぎ、④救急隊による「優先搬送者判断」及び解説と云った一連の流れで実践に則した訓練を行います。

ひとたび大規模災害が発生すると、応急対応には行政機関や消防署、警察署、自衛隊といった「公助」には限度があり、向う3軒両隣りや町内会といった地域住民による「共助」が強力な力となっている現実があります。私たちが取り組んでいるこの「自主防災訓練」は毎年あまり変わらない内容ですが、いざという時に迅速に、的確に対応できるよう、災害対策の基礎訓練として、より多くの人の参加とレベルアップが求められているように思います。

